

7月17日

子どもと触れ合い成長を学ぶ
弟子屈中学校がこども園で保育体験実習



弟子屈中学校(小林一博校長)の3年生35人が7月17日、認定こども園ましゅう(高野龍彦園長)で保育体験実習を行いました。

この実習は家庭科の授業の一環として、子どもの発達・成長を学ぶため毎年行っています。生徒たちは園のクラスごとに分かれ、一緒に外で遊んだり歌を歌ったり、折り紙を折ったりして園児とたくさん触れ合いました。明るく元氣いっぱいな園児たちの姿に、実習に参加した生徒たちにも笑顔が溢れていました。

カメラスケッチ

広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (課直通)

7月18日

新たな就農者を激励
新規就農者準備金贈呈式を開催



令和4年に埼玉県から移住し、今年の4月に町内の牧場を承継し新規就農した、平山虹太さん・愛理さんご夫妻の新規就農者準備金贈呈式が7月18日、町役場で行われました。

贈呈式には、徳永町長、町農業委員会江上真一会長、摩周湖農協八幡健誠副組合長、釧路農業改良普及センター石澤裕史次長が出席。おふたりには、町から準備金の目録が、摩周湖農協からは支援金の目録が贈呈されました。

7月18日

ブドウ園場整備の実施に感謝
クニオカ工業㈱に感謝状贈呈



町は7月18日、社会貢献活動を行ったクニオカ工業㈱(今誠代表取締役)に対し、感謝状の贈呈式を町役場で行いました。

同社は社会貢献活動の一環として、2024年8月に開業した屈斜路カルデラワイナリーで使用するワイン事業用のブドウ園場約1.2ヘクタールを、ブルドーザーなどの重機を用い整備しました。今社長は「これからも地域のための活動を行ってきたい。」と話していました。

7月24日

摩周歌謡クラブが慰問
俣和園でカラオケ交流会を開催



摩周歌謡クラブ(橋本聖会長)が7月24日、老人ホーム俣和園(丹羽好文園長)を慰問し、カラオケ交流会を行いました。

交流会では、同園の利用者5人によるカラオケのほか、同クラブ7人の歌唱や舞踊が披露されました。参加した利用者40人は、リズムに合わせて手をたたいたり、身体を揺らしたりと、アンコールの声も上がるほど盛り上がり、たくさんの笑みを浮かべ楽しい時間を過ごしました。

7月22日

鶴居村とのコラボワインが7月25日から発売中
「tsuru to teshika 2024 ロゼスパークリング」



屈斜路カルデラワイナリーを運営する(株)テシカガファーム(上村剛志代表取締役)が、町と鶴居村(大石正行村長)で生産されたブドウ「山幸」を使用したコラボワイン「tsuru to teshika 2024 ロゼスパークリング」の発売を7月22日、同ワイナリーで発表しました。

このワインは、道内で初めて「広域ワイン特区」として国から認定された町と鶴居村による、初のコラボ商品となります。徳永町長は「これからも結びつきを深めながら両町村が 발전していければ。」と話しました。

より深くふるさとを探究 川湯中学校の生徒が総合的な学習の発表会を実施



1年生による土壌・水質調査結果の発表

B班は「食べ物・特産品」をテーマに、弟子屈町産の果物を使用した新商品の開発や、売店コーナーの工夫例を挙げ、特産品販売による活気ある町づくりを企画。

C班は「環境・自然・建物」をテーマに、使われていない建物の活用や既存施設の見学ツアーを提案し、集客による町の活性化構想を発表。

D班は「自然を活かした遊び場・町づくり」をテーマに、自然アスレチックなどのレジャー施設やウインタースポーツ体験を企画し、温泉街のリニューアルを提案。

発表会には、保護者や学校関係者、近隣住民など約20人が参観し、生徒たちの発表に耳を傾けていました。

クイズを交えながら発表する2、3年生



川湯中学校(松水達郎校長)が7月18日、金学年による総合的な学習の発表会を行いました。

1年生は、地域調査学習として川湯の「土壌調査・水質調査」を実施。硫黄山付近の地熱の高さ・土壌pHの低さと、樹木の成長の関係性についての調査結果を、2、3年生はA、Dの班に分かれ、修学旅行先での調査活動を基に町の活性化プランを発表しました。

A班は「ホテル・温泉街」をテーマに、ホテルや観光地までの移動手段確保、宿泊料金見直しなどの改善点を挙げ、宿つくりを提案。

町の話

CloseUp Topics

全国から中学生が来町

おためし地域留学を実施



参加者みんなで記念撮影

8月6日から8日までの3日間、町教育委員会(岩原勝行教育長)と「(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム(岩本悠代表理事)」による、短期越境プログラム「おためし地域留学in北海道弟子屈町」が実施されました。

おためし地域留学とは、「留学先の地域や地元の人々の魅力を知り、理解を深めるために実施され、神奈川県や千葉県など全国各地から10人の中学生が参加しました。

1日目は、弟子屈高校で伊東文人校長と高校生が町や同校を紹介。中学生たちは真剣に耳を傾け、積極的に質問をしていました。その後、校舎内を見学し、公設民営塾「夢叶塾」へ移動。町の学習環境を確認しました。

2日目はあいにくの雨模様でしたが、午前はカヌーやSUPのアクティビティを体験。午後は川湯ビジターセンターを見学後、足湯や硫黄山などを訪れ、町の自然を満喫しました。

最終日はこの3日間を振り返り、それぞれの感想を発表し合い、おためし地域留学は幕を閉じました。参加した中学生たちにとって、今回の体験が弟子屈町の魅力を知る良いきっかけとなりました。

おためし地域留学とは、「留学先の地域や地元の人々の魅力を知り、理解を深めるために実施され、神奈川県や千葉県など全国各地から10人の中学生が参加しました。



地域みらい留学中の高校生から話を聞く中学生



初めてのカヌーで大自然を体験

8月4日

地元の景色を堪能 てしかがふるさとSKYクルーズを実施



ふるさと教育の一環として北海道航空（株）（岩崎信義代表取締役）が8月4日、ヘリコプターで遊覧飛行を楽しむ「てしかがふるさとSKYクルーズ」を実施しました。上空から本町の美しい自然を子どもたちに実感してもらうことが目的で、ヘリコプターは、渡辺体験牧場の特設ヘリポートからスタートし、摩周湖や屈斜路湖などを周遊しました。町内の中学3年生が対象となり、7人が参加。「きれいな景色が見られた。」などの声があり、貴重な体験になりました。

8月2～4日

フィールドスポーツを楽しむ フィールドオブドリームスプロジェクトてしかが



「世界でいちばん美しいフィールドがあるまち」をコンセプトに、NPO法人Field of Dreams Project てしかが（鎌田英樹代表理事）が主催する「フィールドオブドリームスプロジェクトてしかが」が、8月2～4日にかけて摩周観光文化センターコミュニティ広場で開催されました。ゲストにソフトボール元日本代表の高山樹里さんやプロゴルファーの杉原彩花さんなどが招かれ、ソフトボールフェスタやスナッグゴルフ体験が催されました。参加した認定こども園まじゅう（高野龍彦園長）の園児などが、元気に身体を動かしてスポーツを楽しんでいました。

8月7日

みんなで出店ごっこ 川湯保育園で七夕祭りを開催



北海道の七夕の日、8月7日に川湯保育園（小林史和園長）で、七夕祭りを行いました。園児は、自分たちで作ったお神輿を引っ張ったり、的当てやカエルすくいなどの屋台を出店したり、園内でお祭り気分を味わいました。催しの最後には、みんなで協力しながらスイカ割りに挑戦し、笑顔と元気なかけ声が溢れる1日となりました。

8月5日

本町を「アウトドアの聖地」へ 町と（株）シーザスターズが包括連携協定を締結



町は8月5日、国内最大級のアウトドア＆フードメディア「ソトレンビ」を運営する「（株）シーザスターズ」（千秋広太郎代表取締役）と包括連携協定を締結しました。この協定は、町の特産品やふるさと納税返礼品を活用したキャンプ飯の開発、キャンプ場から川湯温泉への誘客の仕組づくり、町公式チャンネルとのコラボ動画の制作を予定しています。徳永町長は「弟屈町の自然や文化、食材が掛け合わさることで、新たな価値が生まれることを期待する。」と話していました。

8月8日

町の絶景を切手でPR 日本郵便（株）がフレーム切手を贈呈



日本郵便（株）北海道支社（坂東秀紀支社長）が、オリジナルフレーム切手「弟子屈 四季の絶景～火山から始まるTESHIKAGASTORY～」を作成し、その贈呈式が8月8日、町役場で行われました。切手のデザインには、第11、13、14回弟子屈フォトコンテスト入賞作品の中から、町内の自然や野鳥などの写真が使用され、町と同コンテストを主催した（一社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）に贈呈されました。

8月7日

大地震の発生に備えて 令和7年度町総合防災訓練を実施



町は8月7日、弟子屈中学校体育館で令和7年度町総合防災訓練を実施しました。訓練は大規模な地震の発生を想定して実施され、町民や役場職員、地元企業などの125人が参加し、防災ベッドやバーテーションの組み立て、ラップ式トイレの説明、炊き出しが行われました。参加者は避難所生活の模擬体験を通して、防災に対する意識や対応力を高めました。

7月26日

在来の植物を守る 特定外来生物「オオハンゴンソウ」防除活動



7月26日、JR川湯温泉駅前の国道沿いで、特定外来生物「オオハンゴンソウ」の防除活動が実施されました。この活動は毎年、NPO法人てしかがトレイルクラブ（土屋重敏代表理事）とボランティアの方々、役場職員などで行っています。特定外来生物の中でも、オオハンゴンソウは特に在来植物の成長を阻害するとされています。例年の活動継続により一部地域では生育本数が大幅に減少しており、目に見える効果の現われに、本町の自然を守っていることを感じられる1日となりました。

7月30日

順調な収穫と出荷を祝い 摩周メロン豊稔祭を開催



摩周メロン生産組合（窪内英和組合長）の豊稔祭が7月30日、町農産物集出荷センターで開催され、吉備津副町長、摩周湖農協八幡健誠副組合長、弟子屈郵便局佐々木啓之局長がメロンカットを行いました。今年は4、5月の低温とその後の猛暑により温度管理や遮熱対策に苦労したが、すっきりとした甘さでちょうどよい大きさのメロンが収穫できたと報告がありました。今年は赤肉・青肉合わせて2万玉の出荷を予定しており、窪内組合長は「一人でも多くの方の手に渡れば。」と話していました。

7月27日

町公民館で夏祭りを りもらPLUS+夏祭りマルシェ開催



7月27日、リラケーショナリ（大淵真由美代表）主催の「りもらPLUS+夏祭りマルシェ」が、町公民館で開催されました。ワークショップやヘッドマッサージなどのほか、弟子屈中学校（小林一博校長）や弟子屈高校（伊東文人校長）の生徒たちが制作した、キャンドルやコースターなどのハンドメイド作品の販売も行われました。約30店舗が出店した会場は100人以上の来場客で賑わい、子どもから大人まで楽しめる1日となりました。

8月2日

木と触れ合う機会を作ろう 夏休み親子トンカチ広場を開催



8月2日、町主催の「夏休み親子トンカチ広場」が町林業多目的センターで開催されました。木育の一環として毎年行われているもので、子ども5人、大人4人が参加し、親子での夏の思い出づくりや夏休みの自由研究として、皆さん熱心に取り組みました。どの家庭も力作ぞろいで、子どもたちは普段使い慣れないノコギリや金づちの使い方を家族に教えてもらいながら、上手に作品を作りあげました。

8月1日

さらなる町民の健康増進に向けて 明治安田生命保険（相）と包括連携協定を締結



町は8月1日、明治安田生命保険（相）銅路支社（谷口努支社長）と健康増進などに関する包括連携協定を締結しました。この協定は、町民の健康増進や子育て支援、観光や産業の振興などさまざまな分野において双方が連携・協働し、地域課題に迅速に対応していくことを目的としています。徳永町長は「豊富な知見やネットワークを活かした支援をいただけることは、非常に大きな意義がある。」と話していました。